

「エモーショナル・サポートを要するハイリスク 症例の早期発見に関する検討」

分担研究：「妊産褥婦へのエモーショナル・サポートに関する研究」

研究協力者 佐藤昌司（九州大学医学部婦人科産科）

要約：

一般妊産褥婦に対する精神面支援のプロトコルを策定し、本法の介入効果をSTAIを用いて評価した。対象は、平成7年10月から平成8年12月にいたる期間に、九州大学医学部附属病院周産母子センターで外来管理を受けた妊婦85例である。妊娠中の精神不安評価の指標には、STAI(State-Trait Anxiety Inventory)質問紙を用いた。対象例のなかで、個別精神面支援を希望した群と、希望しなかった群に関して、妊娠合併症および不安の内訳、および両群の精神面支援前のSTAIについて群間比較を行った。また、個別精神面支援を反復して実施した症例に関して、支援前後での状態不安の推移を検討した。その結果、個別精神面支援を希望した妊婦は29名であった。個別精神面支援を希望した群では、既往妊娠分娩歴に合併症を有していた症例が有意に高かった($p < 0.05$)。個別精神面支援を行った群における状態不安尺度は、支援前および支援後が各々、 45.8 ± 6.0 、 41.2 ± 4.2 であり、支援後は支援前に比べて状態不安尺度が有意に低下した。一方、個別支援を希望しなかった群の状態不安尺度は各々、 34.1 ± 4.1 および 35.3 ± 4.5 であり、個別支援を希望した妊婦群は、希望しなかった群に比べて状態不安尺度が有意に高値であった($p < 0.05$)。さらに、妊娠中期および後期に反復して個別精神面支援を行った症例の状態不安尺度の推移を検討した結果、精神面支援後には不安尺度の低下を示す一方で、2回目の支援前には再び不安尺度の上昇を示す傾向がみられた。以上の成績から、医療従事者側からの支援提案に基づく対象患者の抽出は、精神面支援からみたハイリスク群のスクリーニングに有意義であり、個別精神面支援は、少なくとも

短期的には患者の状態不安の軽減に有効であること、しかしながら、長期的な観点からみた精神面支援の可否に関しては、検討を要することが示唆された。

見出し語：妊産褥婦、精神面支援、STAI、
状態不安

はじめに：

本研究の目的は、一般の妊産褥婦を対象とした精神面支援のプロトコルを策定し、本プロトコルの介入効果を科学的に評価することによってサポートを要するハイリスク妊産褥婦を抽出することである。前年度の研究で、一般妊産褥婦に対してSTAIを用いた精神面支援のプロトコルを評価した結果、個別支援を希望した妊婦群は、希望しなかった群に比べて状態不安尺度が高値であったこと、また、支援後のSTAIは支援前に比べて低値を示していることを報告した。本年度は、本プロトコル試行の症例数を増加させ、反復支援の効果判定の成績、ならびに問題点に関して検討を加えた。

研究方法：

対象は、平成7年10月から平成8年12月にいたる期間に、九州大学医学部附属病院周産母子センターで外来管理を受けた妊婦85例である。対象は無作為に抽出し、妊娠中の精神不安を評価する目的で、インフォームド・コンセントを得た後、STAI(State-Trait Anxiety Inventory)質問紙¹⁾を配布し回答を得た。精神面支援は産婦人科医および助産婦の二名で行った。支援にあたっての態度あるいは支援方法等の基本指針は、精神神経科医の作成した要項²⁾に従っ

た。

対象例のなかで、個別精神面支援を希望した群と、希望しなかった群に関して、1)妊娠合併症および不安の内訳、および2)両群の精神面支援前のSTAI、について群間比較を行った。3)個別精神面支援を反復して実施した症例に関して、支援前後での状態不安の推移を検討した。

統計学的解析は、Student t-test、 χ^2 検定を用いた。

結果：

対象例85例中、個別精神面支援を希望した妊婦は29名で、他の56名は個別支援は行わず、STAIのみを調査した。

1. 個別精神面支援希望の有無からみた妊娠合併症および不安の内訳の相違

表1に、個別精神面支援希望の有無で分けた妊娠合併症および不安の背景を示した。不安に関連する事項としては、産科的合併症の既往、経済的不安、年齢に対する不安および家族に対する不安などがみられた。このなかで、産科的合併症に関しては、既往妊娠分娩歴に重症（自覚的）合併症を有するためと解答した症例が、個別支援希望群に有意に高かった($p<0.05$)。

2. 個別精神面支援希望の有無からみた精神面支援前のSTAI値の相違

個別精神面支援を行った群における状態不安尺度は、支援前が 45.8 ± 6.0 (平均値 \pm 1SD)、支援後が 41.2 ± 4.2 であり、支援後は支援前に比べて状態不安尺度が有意に低下した(図1)。特性不安尺度は、支援前が 41.8 ± 6.5 、支援後が 41.3 ± 5.3 であった。一方、個別支援を希望しなかった群の状態不安尺度および特性不安尺度は各々、 34.1 ± 4.1 および 35.3 ± 4.5 であった。個別支援を希望した妊婦群は、希望しなかった群に比べて状態不安尺度が有意に高値であった($p<0.05$)(図2)。

3. 個別精神面支援を反復して実施した症例における支援前後での状態不安の推移

個別精神面支援を行った症例のなかで、9例では妊娠14週から20週までに1回、28週から36週までに1回の計2回の精神面支援が施行された。図3に、これら9例の個別支援前後の状態不安尺度の推移を示す。状態不安尺度は1回目の精神面支援前、支援後、2回目の支援前および支援後が各々、 47.2 ± 4.5 、 42.5 ± 4.3 、 45.2 ± 4.0 および 43.8 ± 3.9 であり、1回目の精神面支援後の状態不安尺度は、他の値に比べて有意に低値であった($p<0.05$)。

表1 個別精神面支援希望の有無からみた不安の背景

個別精神面支援	希望あり (29例)	希望なし (56例)	p
既往妊娠歴に産科的合併症があった	23例(79.3%)	29例(51.8%)	<0.05
慢性疾患を有している	6例(20.7%)	4例(7.1%)	ns
精神的に問題が出た	3(10.3)	0(0.0)	ns
妊娠中毒症・高血圧	3(10.3)	6(10.7)	ns
早産・切迫早産	9(31.0)	15(26.8)	ns
出血	8(27.6)	14(25.0)	ns
その他	3(10.3)	5(8.9)	ns
経済的不安	6(20.7)	7(12.5)	ns
年齢に対する不安	5(17.2)	7(12.5)	ns
家族(夫その他)に対する不安	4(13.8)	6(10.7)	ns

図1 個別精神面支援前後の状態不安尺度

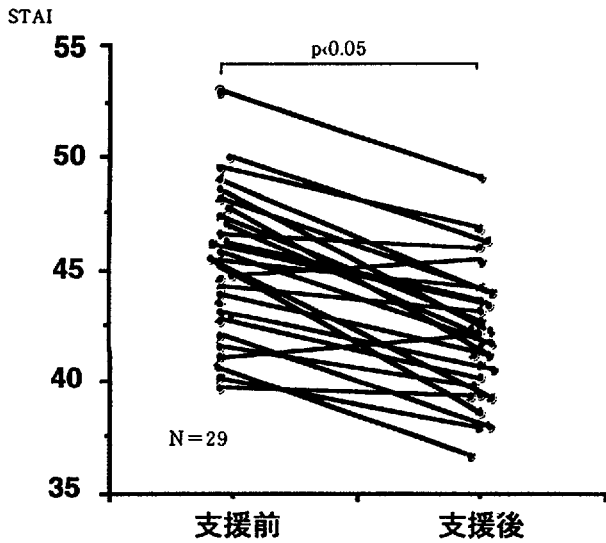


図2 個別精神面支援希望の有無と状態不安尺度

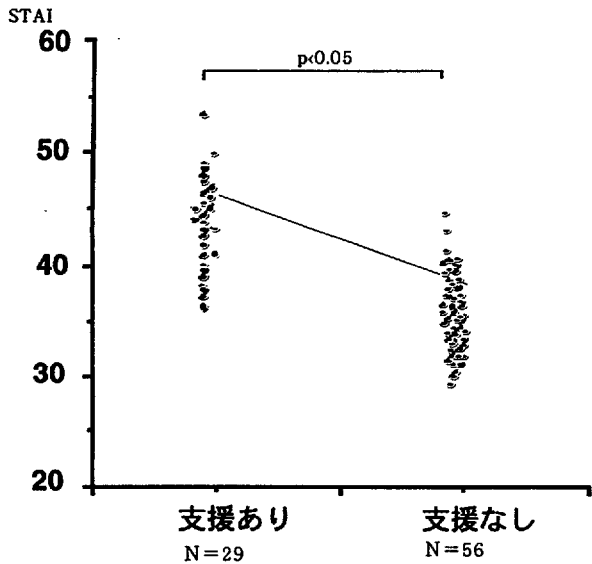
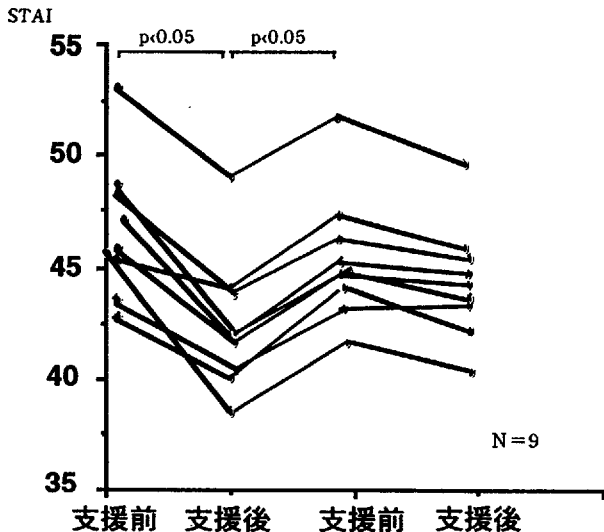


図3 個別精神面支援前後の状態不安尺度



考察：

一般妊産褥婦の精神不安の客観的評価を行い、臨床面に適用可能な精神面支援の方策を試行することを本研究の目的とした。

前年度に引き続いて試行した本プロトコールは、外来初診時に個別精神面支援の提案を行い、患者の希望に沿う形で個別支援実施群と非実施群に群別する方法であり、今回も前年度と同様、個別支援症例を希望した妊婦群は、希望しなかった群に比べて状態不安尺度が有意に高値であった。このことから、換言すれば精神面支援からみたハイリスク妊婦に対する医療従事者側からの支援提案は、そのこと自体がハイリスク群の抽出の一段階として認識する意義を有すると考えられる。さらに今回は、個々の症例の背景にも検討を加えた結果、個別精神面支援を希望した群には、既往妊娠に諸種の合併症がみられた症例が多くみられていた。以前にわれわれは、コンサルトの内容に不安の表出がみられた症例では、何らかの母体合併症あるいは既往歴を有する症例が多く、STAIも高値をとる傾向がみられることを報告した³⁾。この報告と今回の成績を併せて考えれば、一般妊婦のなかで精神面支援を要する症例の抽出には、いわゆる患者の希望に基づくふり分けが、ハイリスク抽出の一方法であることを示している。

個別精神面支援の効果については、前年度の成績と同様に、支援後のSTAIは支援前に比べて有意に低値を示した。その一方で、今回の成績では、妊娠中期および妊娠後期に反復して精神面支援を行った症例の状態不安尺度は、必ずしも低下を示していないことが明らかとなった(図2)。この結果は、少なくとも本法は短期的には、患者の状態不安の軽減に有効であると考えられること、しかしながら、カウンセリングの実施にあたって、患者の要求を充分考慮した支援となっているかに関しては、問題があることを示唆する成績と考える。症例追跡による調査を継続する通じて明らかにする必要がある。すなわち、精神面支援の目的が果して、患者の長期的な不安軽減に寄与しているかに関しては、その可否ならびに支援の具体的方法の改善も含め、引き続き検討していくことが要求されているものとする。

文献：

- 1) Spielberger CD, Corsuch RL and Lushene RE: STAI manual for the state-trait anxiety inventory (self-evaluation questionnaire). California: Consulting Psychologists Press, Inc., 1970.
- 2) 佐藤 昌司: エモーショナル・サポートを要する妊産褥婦の抽出と個別支援法の策定に関する検討.
平成7年度厚生省心身障害研究報告書.
p52-55, 1996.
- 3) 前田 博敬: 母児の合併症を有する妊産婦の精神面支援が妊娠・分娩に及ぼす効果.
平成5年度厚生省心身障害研究報告書.
p43-46, 1994.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:

一般妊産褥婦に対する精神面支援のプロトコルを策定し、本法の介入効果を STAI を用いて評価した。対象は、平成 7 年 10 月から平成 8 年 12 月にいたる期間に、九州大学医学部附属病院周産母子センターで外来管理を受けた妊婦 85 例である。妊娠中の精神不安評価の指標には、STAI(State-Trait Anxiety Inventory)質問紙を用いた。対象例のなかで、個別精神面支援を希望した群と、希望しなかった群に関して、妊娠合併症および不安の内訳、および両群の精神面支援前の STAI について群間比較を行った。また、個別精神面支援を反復して実施した症例に関して、支援前後での状態不安の推移を検討した。その結果、個別精神面支援を希望した妊婦は 29 名であった。個別精神面支援を希望した群では、既往妊娠分娩歴に合併症を有していた症例が有意に高かった($p < 0.05$)。個別精神面支援を行った群における状態不安尺度は、支援前および支援後が各々、 45.8 ± 6.0 、 41.2 ± 4.2 であり、支援後は支援前に比べて状態不安尺度が有意に低下した。一方、個別支援を希望しなかった群の状態不安尺度は各々、 34.1 ± 4.1 および 35.3 ± 4.5 であり、個別支援を希望した妊婦群は、希望しなかった群に比べて状態不安尺度が有意に高値であった($p < 0.05$)。さらに、妊娠中期および後期に反復して個別精神面支援を行った症例の状態不安尺度の推移を検討した結果、精神面支援後には不安尺度の低下を示す一方で、2 回目の支援前には再び不安尺度の上昇を示す傾向がみられた。以上の成績から、医療従事者側からの支援提案に基づく対象患者の抽出は、精神面支援からみたハイリスク群のスクリーニングに有意義であり、個別精神面支援は、少なくとも短期的には患者の状態不安の軽減に有効であること、しかしながら、長期的な観点からみた精神面支援の可否に関しては、検討を要することが示唆された。